

田んぼの生き物調査 2022 年度 最終報告会・講演会

西日本アグロエコロジー協会では、2022 年度に一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストの助成を受けて、「田んぼの生き物調査」（農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較）を実施しました。その結果を報告します。あわせて、健康と生態系への悪影響が指摘されているネオニコチノイドをはじめとする 浸透移行性農薬に依存する農と食からどのように脱却することができるのか、アグロエコロジーの観点からの講演 を行い、意見交換を行います。多くの方の参加をお待ちします。

主催：NPO 法人・西日本アグロエコロジー協会

日時：2023 年 3 月 4 日（土）午後 2 時（受付開始、講演 2 時半より）～4 時半

会場：対面式とオンラインを併用します（ハイブリッド）

対面式：先着 30 名（予約必要）

神戸市中央区文化センター・会議室 1111（JR、阪急、阪神の三宮駅徒歩 5 分）

[\(https://www.kobe-bunka.jp/facilities/chuo/chuo-content/\)](https://www.kobe-bunka.jp/facilities/chuo/chuo-content/)

オンライン：希望者に申し込み後、URL を連絡します。

プログラム

1. 主催者挨拶

2. 基調講演（裏面に講演内容）

「アグロエコロジカルな里山の景観多様性から考える安全・安心な食農の復権：

（その 1）浸透移行性農薬問題からのレジリエンス」

日鷹一雅（愛媛大学准教授、西日本アグロエコロジー協会理事）

3. 「田んぼの生き物調査」から分かったこと

池上甲一（西日本アグロエコロジー協会共同代表）

4. 質疑、意見交換



羽化中のタイコウチ

参加費：無料

申込は、下記アドレスまで メールでお申込みください

メールアドレス agroecology@shizenha.jp

お申込み内容 *必須

①お名前*

②連絡先（メールアドレス）*

③所属

申込〆切：2/28（火）



調査地で見つかったコウベツ
ブゲンゴロウ（準絶滅危惧種）

基調講演

アグロエコロジカルな里山の景観多様性から考える安全・安心な食農の復権

(その1) 浸透移行性農薬問題からのレジリエンス

講師 日鷹一雅 (愛媛大学大学院農学研究科、西日本アグロエコロジー協会理事)

浸透移行性農薬のネオニコチノイド系など殺虫成分による汚染問題が懸念されている。最近では、サイレント・スプリングどころか、サイレント・アース (「沈黙の地球」) (ゲールソン 2022) が言われるようになり、私たちは、安全、安心な食農を探してさまよっている。私たちはどうすれば安全・安心な暮らしを取り戻すことができるだろうか？



鍵はアグロエコロジーの生態学理論に基づいた行動にある。まずは時・空間を広げて里山の景観の旅に出よう。そうすることで、今は失われつつある豊かな在来の食農の世界に出会える。先人たちが営々と継承してきた地域固有の多様な食農景観に立脚し、自立した暮らしの根を張れば、私たちは汚染問題からの回復力を手にし、レジリエントな食農を復権させることができる。それがサイレント・アースからの回復を目指したアグロエコロジーなのである。



(焼き畑アズキとチャノキ 日鷹ら 1993)

講演の前に読んでおくと役立つ文献

日鷹一雅・羽生淳子(2022) 「レジリエントな地域社会 アグロエコロジーからみた 長期的持続可能と里山」 (<https://www.chikyu.ac.jp/publicity/publications/others/img/Resilient7.pdf>)

日鷹一雅(2020) 「水田生物多様性の成り立ちとその複雑系」 大塚泰介・嶺田拓也編『なぜ田んぼには多様な生き物が住むのか』 京都大学学術出版会

日鷹一雅(2000) 「農生態系のエネルギーの流れの過去・現在・未来」 福井勝義・田中浩司編『自然と結ぶ「農」にみる多様性』 昭和堂

講師プロフィール 1959年東京生まれ、大阪育ち。ルーツは広島。東京農工大学農学部・大学院植物防疫学専攻(農学修士)、広島大学総合科学部大学院生物圏科学研究科(学術博士)修了。国立呉工業高等専門学校講師、日本学術振興会特別研究員PD(岡山大学)、1992年から愛媛大学農学部助手、附属農場(作物担当)を経る。現在、日本有機農業学会理事、日本農業農村工学会農村生態工学研究部会専任理事、愛媛県環境審議会、国土計画審議会、環境アセス審査会、生物多様性保全推進委員会委員など